

A 研究報告（概要一覧表）

平成 27 年 2 月 25 日
（平成 26 年 1 1 月～平成 27 年 1 月受理分）

研究報告のまとめ方について

- 1 平成 26 年 1 1 月～平成 27 年 1 月までに提出された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。
- 2 概要の後に、個別の研究報告の詳細を添付した。

【血液製剤、輸血の安全性に関する報告】

感染症	出典	概要	番号	詳細版 ページ
<肝炎ウイルス>				
E型肝炎	Transfusion. 8(2014)2134- 2135	輸血によるE型肝炎ウイルス(HEV)伝播を予防する対策について。IgGおよびIgM検査によるスクリーニングでは、HEVによる輸血汚染を排除しきれず、HEV NATのみが有効であると考えられる。しかしながら、HEV NATによるスクリーニングの導入に際しては、感染リスクの十分な調査と費用対効果の検討が必要であるとの報告。	1	1~4
<その他のウイルス>				
HIV感染	transfusion. 54(2014)2361- 2362	日本における20プール核酸増幅検査(NAT)陰性血液の輸血によるHIV感染事例の報告。2013年11月、複数回献血者である40歳代男性のHIV-1感染が確認された。遡及調査ガイドラインに従い個別NATで検査したところ、2013年2月の保管検体からHIV-1 RNAを検出した。当該献血から赤血球製剤と新鮮凍結血漿が製造され、新鮮凍結血漿を投与された60歳代の男性のHIV-1感染が確認された。輸血感染を引き起こした血液のHIV-1ウイルス量を推定したところ、NAT検出限界以下(約10コピー/ml)であり、感染初期のウインドウ期に献血されたと考えられる。	2	5~8
パルボウイルス感染	日本輸血細胞治療学会誌. 60(2014)561- 564	日本における輸血用血液製剤によるヒトパルボウイルスB19(以下、B19)感染に関する報告。日本赤十字社血液センターでは、1997年9月より献血血液のB19抗原スクリーニング検査をRHA法により開始した。2008年から検査方法をCLEIA法に変更して検出感度の向上を図ったことにより、輸血後副作用調査によるB19感染疑い例の副作用発生頻度は概ね1回/1年から1回/4~5年に改善した。	3	9~14
チクングニヤウイルス感染	transfusion. 54(2014)1945- 1952	タイにおけるチクングニヤ熱(CHIKF)感染の報告。タイのソンクラー県における2009年の9,000例を超えるCHIKF流行中の輸血を介したCHIKF感染リスクを推定したところ、26,722供血血液中11~15供血血液が輸血リスクに関連すると推測された。	4	15~24
SFTSVウイルス感染	AABB Annual meeting 2014; Philadelphia, PA, U.S.; Oct 25-28, 2014.	中国の供血者における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)に関する報告。中国のSFTSV流行地域(信陽市)および非流行地域(綿陽市、洛陽市)の供血者において抗体検査を行ったところ、抗体陽性率は流行地域で0.59%、非流行地域でそれぞれ0.27%、0.28%であった。また、流行地域でのSFTSV RNA陽性率は0.02%であった。	5	25~28

＜その他＞				
アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion. 54(2014)2092-2097	米国における供血者のシャーガス病既往歴に関する報告。米国において、2000年1月～2011年8月の12年間で約8,800万例の供血者のうち、34例がシャーガス病既往歴の自己申告のため供血を延期し、このうちTrypanosoma.Cruzi(T.Cruzi)の感染が可能性が特定された供血者は28例であった。2007年以降の約5年間のT.Cruzi抗体スクリーニングで488例(1/43,600例)の放射性免疫沈降アッセイ陽性供血者を確認し、これらのうちシャーガス病既往歴を自己申告した供血者はいなかった。これらの調査から、シャーガス病既往歴の質問は10億供血あたり0.4人の感染者からの採血を防ぐと推定され、著者らは、米国では抗体検査実施下では、供血者へのシャーガス病既往歴の問診は意味がないと考えている。	6	29～36
バベシア症	Transfusion. 54(2014) 2226-2236	米国におけるBabesia microti(B.microti)の報告。臨床研究中のB.microtiスクリーニング(arrayed fluorescence immunoassay(AFIA))およびPCRを用いて、2010年および2011年5～9月に米国の非流行地域(アリゾナ州、オクラホマ州)、中程度の流行地域(ミネソタ州、ウィスコンシン州)、高流行地域(コネチカット州、マサチューセッツ州)における供血者保管検体の検査を行ったところ、非流行地域4,022例、中流行地域4,167例、高流行地域5,080例のサンプルが検査され、B.microti陽性率は、0.025%、0.12%、0.75%であり、予想された地理的なパターンに従った。	7	37～48
バベシア症	Transfusion. 54(2014) 2217-2225	蛍光抗体法(IFA法)によるBabesia microti抗体価が64倍以上の供血者において、3年間の追跡調査を行ったところ、これらの供血者は低レベルの原虫血症が長期化し、寄生虫学的検査や分子生物学的検査で断続的に陽性となる供血者が確認された。	8	49～58
ブルセラ症	AABB Annual meeting 2014; Philadelphia, PA, U.S.; Oct 25-28, 2014	米国においてBrucella abortus汚染された血小板製剤が投与された報告。血小板減少症で入院中の男性が血小板製剤を輸血後に、当該製剤のBrucella abortus汚染が確認された。担当医への迅速な報告により、患者は広域抗生物質が投与された。患者は6ヶ月間、Brucella凝集反応試験を行ったが全て陰性であり、その後も臨床感染のエビデンスは確認されなかった。	9	59～62
クロイツフェルト・ヤコブ病	J Hosp Infect. 88(2014)22-27	英国におけるクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の報告。英国におけるCJD77例は医源性伝播による可能性が高く、64例がヒト由来成長ホルモン、8例が硬膜移植片、4例が輸血、1例が血漿製品による可能性が高いと考えられた。	10	63～70

【その他の報告】

感染症	出典	概要	番号	詳細版 ページ
<肝炎ウイルス>				
E型肝炎、HIV感染	AIDS. 28(2014)1931-1937	スペインのHIV感染者におけるE型肝炎ウイルス(HEV)重複感染に関する報告。スペインにおいて613例のHIV感染者を対象に、血清中のHEV IgG抗体とHEV RNAについて調べた。調査開始時に161例(26%)がHEV IgG抗体陽性であり、感染率は女性に比べ男性の方が高く、年齢とともに直線的に上昇した。18例が2年間の追跡期間中にセロコンバージョンを起こし、1例が急性肝炎を発症し、4例が軽微な高トランスアミラーゼ血症をきたした。セロコンバージョンから慢性HEV感染に移行した症例はなかった。	11	71~78
<その他のウイルス>				
エボラウイルス感染	CDC Press Release Sep. 30, 2014	米国における初のエボラウイルス感染の報告。CDCは、2014年9月30日、リベリアに渡航しテキサス州ダラスに帰国した男性が臨床検査により、米国で初のエボラ出血熱の症例であると確定した。患者は、西アフリカを出発したときには症状がなく、9月20日に米国に到着し4日後に症状を発現した。	12	79~82
コロナウイルス感染	mBio. 5(2014)	サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2013年にサウジアラビアにおいて、MERS感染により死亡した男性患者、彼が飼育していたラクダ、ラクダの飼育小屋の大気サンプルから、MERSコロナウイルス(MERS-CoV)が検出され、それらの遺伝子配列が一致していること確認された。ラクダはMERS-CoVの感染源になりうると考えられ、閉鎖された空間内でヒトに伝播する可能性があることが示唆された。	13	83~92
インフルエンザ	YOMIURI ONLINE(読売 新聞) 2014/09/02	中国農業省は2014年9月1日、黒竜江省ハルビン市の飼育場で死んだガチョウから鳥インフルエンザH5N6型ウイルスが検出されたと発表した。8月28日に、飼育されたガチョウ約18,000羽が大量死しているのが発見され、感染のおそれのある約69,000例が殺処分された。	14	93~94

オニオンニオンウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1766-1767	ドイツにおけるオニオンニオンウイルス(ONNV)の報告。2013年10月14日、7日間の東アフリカ旅行から帰国した60歳のドイツ在住の女性がONNVに感染した。蛍光抗体(IFA)法により入院時の血清サンプルから、ONNV IgMとIgG抗体およびチングニヤウイルス(CHIKV) IgMとIgG抗体が検出された。発症26日後には、ONNV IgG抗体価が1/4に減少し、ウイルス中和試験におけるONNVに特異的な中和抗体の存在が確認された。CHIKVに対する交差性中和抗体も検出されたが、ONNV(1:1280)よりもかなり低かった(1:80)。	15	95~98
ハンタウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1629-1636	チリ南部におけるアンデスハンタウイルス(ANDV)のヒト-ヒト感染の報告。アンデスハンタウイルス感染患者への接触後に2人の家族と2人の医療従事者において、ANDV感染が確認された。	16	99~108
<その他>				
住血吸虫症	Lancet. 389(2014)1094-1095	欧州において、住血吸虫症の土着症例および輸入症例が増加している。地中海地域は住血吸虫の中間宿主である淡水巻貝の一種Bullnussの生息地であり、気候温暖化により、地域内感染が発生しやすい環境となっている。また多くの旅行者が流行地域で水への曝露により汚染され帰国する。欧州各国の国軍ではアフリカでの任務のため多くの住血吸虫症が見られる。	17	109~111